

心ま

第47号

題字は村上かおりさん書（脳性マヒ1級）水戸市在住



シンボルマークは
川村 礼子さん作
つくば市在住

発行 茨城県肢体不自由児者
編集 父母の会連合会
発行日 令和5年9月30日
事務局 〒310-0851
水戸市千波町1918
セキショウ・ウェルビーイング福祉会館
029-243-3838



写真：全国大会 岡山大会 岡山城

令和6年関東甲信越ブロック茨城大会に向けて

茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 会長 御代川 栄子

今年は気象庁観測史上、初めての記録的な暑さが続いた夏でしたが、皆様も体調管理に気を付けながら、この夏を過ごされたことと思います。

6月5日(月)に開催されました令和5年度の総会は、役員改選の年でもありましたが、来年の第61回関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会のブロック大会が、茨城県肢連主催で開催されるため、新役員も前年度とほぼ変わりなく決定いたしました。令和6年6月29日(土)に開催される茨城大会に向けて、全員で力を合わせて取り組んでいくことを確認し総会を終了いたしました。

現在、関東ブロック茨城大会実行・運営委員会を立ち上げて、全国大会の大テーマである『住

み慣れた地域で共生社会の実現』を柱に、茨城大会では「重度の障害があっても地域で安心して暮らせる社会」を掲げました。障害者自身が選択した暮らしの支援方法などを、専門家の先生達を通して学ぶことができたら幸いです。

コロナ感染症発生によりリモートでの大会が続きましたが、今年の5月からコロナ感染症も5類に分類され、5年ぶりに茨城大会は対面にて開催されますが、皆様と直接お会いし繋がることの素晴らしさを実感できるのではないかと考えています。



この広報紙は共同募金配分金が使われております。

令和5年度総会を開催

出席者26名

日時 令和5年6月5日(月) 10:00～

場所 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館

県障害福祉課長と特別支援教育課総括補佐を来賓に迎え、令和5年度総会が開催されました。障害者の高齢化による新たな問題の提起や改正障害者差別解消法の令和6年施行に伴い『就労機会の促進』『差別相談員の設置』に取り組んでいる点などの報告があいさつに盛り込まれていました。コロナ禍におけるIT機器の活用によりオンライン授業の導入で、学習の遅れを少なく出来たことなど、県職員より現状を知り得たことで通常開催の意義が十分に果されたと思います。

来年度の関ブロ「茨城大会」に向けて、実行・運営委員会の発足の決議がなされ、来年度の大会への準備が本格的に始動しました。



令和5・6年度役員

令和5・6年度役員決まる

茨城県肢体不自由児者父母の会連合会役員名簿

区分	氏名	役職	所属単体会
総務	委員長 御代川 栄子	会長	うしく肢体不自由児者父母の会
	副委員長 石津 守代	副会長	ひたちなか市障害児者育成会
	渡辺 剛秀	副会長	土浦市肢体不自由児(者)父母の会
	沼尻 由美	副会長	つくば肢体不自由児者父母の会
	軍司 明美	広報委員長	ひたちなか市障害児者育成会
	尾坐原 由香	研修委員長	ひたちなか市障害児者育成会
広報	委員長 軍司 明美	理事	ひたちなか市障害児者育成会
	副委員長 渡邊 貞子	理事	水戸市肢体不自由児者父母の会
	御代川 栄子	理事	うしく肢体不自由児者父母の会
	渡辺 剛秀	理事	土浦市肢体不自由児(者)父母の会
	福田 勝房	理事	境町心身障害児者父母の会
研修	船木 史子	理事	水戸市肢体不自由児者父母の会
	委員長 尾坐原 由香	理事	ひたちなか市障害児者育成会
	副委員長 沼尻 由美	理事	つくば肢体不自由児者父母の会
	石津 守代	理事	ひたちなか市障害児者育成会
	大石 美代子	理事	古河市中心障害児(者)父母の会
	辻村 歌代子	—	水戸市肢体不自由児者父母の会
	鈴木 芳江	理事	東海村心身障がい児者親の会
	門間 明子	理事	東海村心身障がい児者親の会
監事 菅谷 久美子	—	結城市心身障害児(者)父母の会	
監事 上出 朱美	—	ひたちなか市障害児者育成会	
常務理事兼事務局長 村田 裕二	—	茨城県肢体不自由児者父母の会連合会	

第60回 関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会 栃木大会

日時 令和5年7月1日(土)

オンライン開催

大会テーマ 「医療的ケア児の普通の暮らしとは～ケの日も ハレの日も～」

今回の関東ブロック栃木大会は前々回東京大会(全国大会併合)、前回長野同様2大会連続でYouTubeによるオンライン開催となった。以下に大会スケジュールに沿って概要を紹介する。

(1)主催挨拶 小林 厚子 栃木県肢連会長

- ここ3年間の活動は会員の減少・高齢化に加え、コロナ禍の影響で大きなダメージを受けた。
- 今大会は「医療的ケア児及びその家族に対する支援の法律」に特化し、必要な時に必要な支援が確実に届くようにしたい。普通の暮らしをするために。～ケの日も ハレの日も～をテーマとした。

(2)祝辞 清水 誠一 全肢連会長

- R3年6月「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が制定され「医療的ケア児支援センター」を全国で整備することになった。
- 全肢連ではR5年度政策要望に当たり、第2期障害児福祉計画に対し5項目の重点を実施するよう要望した。まだまだ医療・福祉に関わる社会資源や基盤整備に地域間格差があり、全ての地域で最大限機能している状況ではない。R5年4月「こども家庭庁」が発足した。今後縦割り行政を打破し、いかに発展して行くか注目している。

3 講演会・対談

- 講演者：高橋 昭彦 ひばりクリニック院長 認定特定非営利活動法人うりずん理事長
- 対談者：小林 厚子 栃木県肢体不自由児者父母の会連合会会長
- テーマ：「医療的ケア児者の暮らしとは～ケの日も、ハレの日も～」
- 概要：医療や医療機器の進歩により医療的ケアが必要でも自宅で過ごせる子供達が増加している。一方でその家族を支える社会資源や福祉サービス、保護等は充実していない。小児在宅医療の役割は子供と家族の、今と今後を考えること（18歳で終わりではない）「うりずん」は子供の日々の暮らしを保障するためチームで関わる在宅ケアを実施し、ケの日は「風呂の7/7」を、ハレの日は「経験を0より1を増やす」ための取組として動物園ツアー、クリスマス会等を実施している。又、医療的ケア児本人のみではなく兄弟も悩みが多い。兄弟に対する支援として「しぶたねさん」を運営している。最後に栃木県肢連は今後どの様に行動すればよいのか？との質問があり、講演者からは、子供と家族のために必要な支援を行うには多くの課題がある。社会環境を整えて行くための運動を進めることが必要。それには障害者がどんどん外へ出ていくことが大事である。との回答があった。

大会決議文

障害を持っている私たちの子どもへの日々の対応は、私たちの日常です。誕生の頃・思春期の頃・成人の頃も、自分の意志を伝えられるか否かに関わらず、自立の頃にも親が中心です。

私たちの子が、友達の声聞き多様な人と関わり一喜一憂しながら成長していくこと、いろいろな制度を利用しながら障害のない人と同じ空間で過ごすことは、とても大切なことです。

生活していく中で、その時々的情勢や事件等、求めにより法案や制度は生み出され度あるごとに改正されてきました。これにより関わる人がたくさん増え、寄り添う家族だけにならず、地域の中で普通に暮らせるようでありがたいと願います。

そのために何をすべきかを考え皆で学び、行政や地域に働きかけ、安心して暮らせる街づくりに積極的に関わって行きたいと思います。

ここに第60回関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会栃木大会において次の事を決議します。

1. 医療的ケア児者の日常を支える通所施設や体制の充実を求める
2. 災害時避難行動要支援者制度に則り、地域の防災イベントが積極的に行われ、障害児者・医療的ケア児者への支援の充実を求める
3. 障害者本人、家族が様々なことを諦めない暮らしへの発信
4. 障害児者・医療的ケア児者への理解を深める啓発活動の充実に努める

令和5年7月1日

第60回関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会栃木大会

《父母の会連合会連絡協議会会長表彰者》

「地域活動の援助者」

土浦市肢体不自由児(者)父母の会
渡辺 剛秀 氏



関プロ栃木大会において「地域活動援助者表彰」を頂きました。大変光栄で推薦頂いた皆様に感謝申し上げます。地域活動は堀田会長に任せ切りでご迷惑をお掛けしており、申し訳ないと思っています。

昨今、障害福祉関係法令が整備され、息子が生まれた30数年前に比べ、障害者を取巻く環境は改善されて来ていますが「地域間格差の広がり、親なき後の憂い解消」は大きな課題として残っています。この課題を解決して行くためには当事者である私達が団結し、社会に訴えて行くしか方法が無いと思っています。

今後も父母の会の活動を通じ障害者がより良い生活が送れる社会の実現に向け頑張ります。

第56回 全国肢体不自由児者父母の会連合会 全国大会

日時 令和5年8月4日(金)・5日(土) 会場 岡山コンベンションセンター 参加者 約300名

大会テーマ

『住み慣れた地域で共生社会の実現！』

～障害者理解を進め、本人も家族も生き生きとした人生を送るために～



『障害者本人たちの声』

「お父さんお母さんは自分の人生を楽しめていますか。私たちは介助がなければ生きていくことは難しいです。現実問題として介助をしてもらわなければ困りますが、介助が全てであるような人生を送ってほしくありません。」「私たちは肢体不自由と呼ばれているけれど、一人ひとり身体の状態、出来ること、苦手なことは違い、それぞれみんなが違うことを知ってほ

しい。」この声を参考にサブテーマが決められ、今年の全肢連全国大会岡山大会が開催されました。記念講演では「医療を上手に活用するには」のテーマで、訪問診療を専門に行っている、つばさクリニック岡山の中川ふみ医師が、年齢や病気・障害の種類を問わず、安定した豊かな生活・その人らしい生活を送っていただくための医療をめざして活動している事を中心に講演してくださりました。実践していらっしゃる中川医師の一言一言の言葉が心に響きました。

シンポジウムでは、コーディネータに中川ふみ医師を迎え、シンポジストは本人(障害者)2人・保護者2人・きょうだい一人の5で行われました。障害者本人たちからは、共生社会をつくるための取り組み方や、保護者からは20年前にボランティアさん達と介護事業所を立ち上げ、現在もがんばっているお話を聞き、挑戦し続ける大切さを学びました。

大会決議文

「障害者基本法」の成立からちょうど30年、この法律の理念を基にさまざまな障害者福祉に関する法律が制定されてきました。福祉サービスも充実し、たとえ重い障害があっても希望すれば在宅での生活が可能となりました。

しかし、いくら法律や制度が整っても、すぐに充実した在宅生活が実現するわけではありません。実際に生活している障害当事者や家族、関係者が常に制度を検証し、より良いものにしていく必要があります。新たな困難に出会ったら、まずはそれを広く発信していくことが大切だと実感しています。

そうした中、私たち肢体不自由児者父母の会は、未だ残る障害児者に対する偏見や差別、生活上の困難さを解消すべく活動してまいりました。

そして本日、ここ岡山において全国から肢体不自由児者本人とその家族、福祉関係者が一堂に会し、「住み慣れた地域で共生社会の実現！」をテーマに、法律や制度が整う中であっ

ても時代の変遷に伴って新たに顕在化してきた課題を出し合って熱心に討議いたしました。

今大会で発表された当事者の声や現場を熟知された医療者の声、さらには声なき言葉なき当事者の思いを私たちは汲み取り、住み慣れた地域で、本人も家族も活き活きとした人生を送ることができるように、第56回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会及び第53回中国四国肢体不自由児者父母の会連合会岡山大会の名において、以下のことを決議いたします。

- 一、医療的ケア児の増加という新たな障害の重度化傾向に対応した在宅生活の支援の充実を図ること。
- 一、障害児者の家族が安心して働くことができる社会環境を整えること。
- 一、ICTの可能性を探り、それを利用して障害児者のQOLを高めること。
- 一、災害の激甚化に対応した個別避難計画の作成を急ぐこと。
- 一、小児期から青年期への医療のスムーズな流れが可能となるように、移行期医療支援センターの設置を促進すること。
- 一、障害があっても親亡き後、望む暮らしが続けられるような社会の構築を目指すこと。

令和5年8月5日

第56回全国肢体不自由児者父母の会連合会 全国大会

第53回中国四国肢体不自由児者父母の会連合会 岡山大会

令和5年度 第1回 茨城県肢体不自由児者父母の会 研修会

日時：令和5年8月19日(土) 会場：セキショウ・ウェルビーイング福祉会館 参加者：32名

講師：茨城県ボッチャ協会 理事 横山 猛氏 (公)日本パラスポーツ協会指導員 横山 紀子氏

8月19日県総合福祉課会館において令和5年度第1回研修会を実施しました。

私たち父母の会連合会では、重度の障害児者にも楽しめるスポーツやレクリエーションの普及に取り組んでおり、これまでにハンドアーチェリーや卓球、バレー等を実践して参りました。

今年度は東京パラリンピックで注目を集めた"ボッチャ競技"に挑戦してみたいと言う会員の声から、ボッチャ競技の体験会を開催し、日ごろのスポーツをする機会の少ない障害児者や親・家族にボッチャ競技を体験してもらい、また会員同士の交流を深めました。

障害の程度に関わらず、様々な補助具を使えば対等に競技出来る事がわかりました。

初めてボッチャを体験する人から、もう少し練習すれば全国大会に行けてしまいそうなレベルの人まで一緒に競技を楽しみました。

皆笑顔で「楽しかった」と研修会を終えました。



島原手延そうめん販売状況報告

10団体からご協力
いただきありがとうございます
ございました。
今後ともご協力をよろ
しくお願い致します。

そうめん・そば等 (円)			
売上金	支払額	各会への還付額	父母の会収益
A	B	C	A - B - C
1,287,900	903,500	180,330	204,070

茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 令和5年度下期行事予定表

新型コロナウイルス感染状況によっては、変更になる可能性があります。

月	日(曜日)	父母の会 肢体協 関係団体等行事
10月	上旬～	第71回「手足の不自由な子どもを育てる運動」実施
	5日(木)	県障害者福祉の集い(大洗町民会館)
	28日(土)	特別全国障害者スポーツ大会(鹿児島市～30日)
11月	2日(木)	関プロ連絡協議会合同会議(レイクビュー水戸)
	2日(木)	茨城大会実行運営委員会(レイクビュー水戸)
	11日(土)	全肢連地域指導者育成セミナー(～12日 前橋市)
12月	8日(金)	ナイスハート発表会・美術展(～11日)
	9日(土)	ナイスハートふれあいフェスティバル(～10日)
		下妻特別支援学校保護者との懇談会
令和6年	15日(日)	研修会(映画上映会)(セキショウ・ウェルビーイング福祉会館 コミュニティホール)
1月	下旬	つくば特別支援学校保護者との懇談会
2月	下旬	美浦特別支援学校保護者との懇談会
3月	上旬	水戸特別支援学校保護者との懇談会
		令和5年度中学部卒業式出席(県立水戸・下妻・つくば)
		関プロ連絡協議会合同会議(オンライン)

お知らせ

令和6年度 関プロ茨城大会

令和6年6月29日(土)に、関プロ茨城大会が、『ホテルレイクビュー水戸』(飛天の間)にて開催されます。令和5年4月より実行委員会・運営委員会も始動して、準備を進めています。肢体連の皆様のご協力を頂き、茨城県の肢体不自由児者への意識が、高まることを期待しています。

あ じ げ き

今年の5月に、コロナ感染症が5類に移行して、今年度の事業は、コロナ禍以前の状態に戻りつつあります。来年度は、関プロ茨城大会も予定されています。今夏は、特に猛暑の日が続いています。どうか皆様自愛ください。

広報委員長 軍司 明美